

つながり

3号

2022年1月



多職種連携

- ◆ web 研修：3師会講師による学習会の紹介
- ◆ コロナ第4波における終末期ケアに関する実態調査
訪問看護ステーション／居宅介護支援事業のアンケート結果から

長浜米原地域医療支援センター

滋賀県長浜市宮司町 1181-2

TEL / FAX 0749-65-2755

E-mail : nm.iryoshien@iaa.itkeeper.ne.jp



ホームページ

web研修：3師会講師による学習会のポイント紹介

第1回（8月19日） 私自身のケア well-being 浅井東診療所 大西規史先生
あなたの well-being 自分が「良い状態」と感じるのはどんな時ですか？

最近注目されている「well-being」ですが、そもそもどういった意味があるのでしょうか？心身ともに良好な状態にあることを意味する概念で、「幸福」とも翻訳されます。その実現のための一つに reframing という考え方があります。reframing とは出来事の枠組み（フレーム）を変えることで、出来事に別の視点を持たせるという意味です。有名なたとえ話ですが、コップに水が半分入っている時「半分しか入っていない」というフレームと「半分も入っている」というフレームでは物事の感じ方が変わってきます。「半分しか入っていない」というフレームでは、不満や不足を感じるでしょう。「半分も入っている」というフレームでは、満足や喜びを感じることができます。このように、同じ出来事でもフレームを変えるだけで、物事の感じ方を変えることができますといわれています。しかし、世界幸福度ランキング 2021 年版で日本は 56 位に留まっています。このことは、日本人は物事をプラス思考に変換することが苦手な民族なのかなと感じました。先生の講義を通じて「出来事に対する捉え方や考え方」について多くを学び、考える事ができました。先日、新聞記事を閲覧していると前野隆司氏の幸福感を高める4要素と well-being がアンテナに引っ掛かりました。幸福と思っている人はそうでない人に比べて、創造性や生産性も高いというエビデンスがあるようです。専門職の皆さん自身が幸福でありますように！

WHO - 1948 -

健康とは
単に疾病がない状態ではなく
肉体的、精神的、社会的に
完全に **Well-being** な状態である

2つの キーワード

reframing

その人が持っている枠組みを変える事で、別の視点を持たせる事

受講者の声

- ・改めて自分にとっての well-being を考えた。
- ・事象はあるだけでポジティブもネガティブもない。
- ・一人ひとり、幸せを感じる事は違う。自身の価値観を他者に押し付けない事、違う価値観を受け入れ、歩み寄る視点に気づかされた。
- ・自分の想いを客観的に立ち止まって振り返ることで、自分の気持ちを上手にコントロールしていく。
- ・見えてくる事実の受け止め方が違ってくる。
- ・失敗したことばかりを注目しがちであった事に気づかされた。
- ・対象者の課題抽出に力点を置くのではなく、強みや長所、今できている事に視点を当てていこう。
- ・コロナ禍だけ良かった事にも注目しよう。
- ・Web研修になり移動時間が無くなり時間が有効利用。
- ・ストレスに感じることも捉え方一つで変わる。

well-being については、しっかりトレンド入りしたキャッチフレーズだと思いました。先生の講義について「他のスタッフにも聞かせたいと思った」と 88% の方が回答されました。私もあなたも well-being であるために、reframing の概念を取り入れて、プラス思考の考え方ができるといいですね。

第2回(9月30日)新型コロナウイルスについて一緒に考えよう! みずき薬局 浅井秀星先生

当初、「生活習慣病や認知症などで処方される薬の副作用」について、講義をお願いしていましたが、コロナが猛威を振るっていた時期と重なり、急遽表題の内容に変更になりました。ウイルスの特徴や種類、変異株や感染経路、ワクチンや免疫機能、マスク問題など多くの話題をご提供いただきました。

その中で、私たちの身体に備わる防衛機能(免疫)の仕組みが印象的でした。

《身体の健康を維持していくために欠かせないシステム》

自然免疫 生まれつき体に備わっている仕組み(食細胞など)

獲得免疫 異物に応じた攻撃方法を記憶する後天的な仕組み



例えば、はしかなどのウイルスに一度感染し回復すると体内に抗体ができ、同じ病気に罹り難くなります。一度侵入した病原体の情報を記憶し再び侵入した時に一早く対処できるという特徴がありますが、自然免疫のように先天的に備わっているものではありません。自然免疫ではカバーしきれない事態に対処するのが獲得免疫です。新型コロナの場合は免疫記憶がないので、罹患するか、ワクチンで情報を記憶するしかありませんね。両者とも大切な免疫システムです。



ご感想・ご意見

- ・はっきりした言葉で、丁寧にご講義いただきました。
- ・未知のウイルスに対して免疫がなく感染勃発後早2年、大変な時代になってしまいました。
- ・ワクチンがウイルスと戦う武器になれば…。コロナワクチンの仕組みがわかりました。
- ・当初、予定されていたテーマで講義して欲しい

●湖北全域で、PCA ポンプによる疼痛コントロールが可能になりました! かかりつけ薬局または、近くの保険薬局へご相談ください。



受講者から「クリーンベンチって何ですか?」と質問がありました。
湖北薬剤師会で配備されました「簡易型クリーンベンチ」についてご紹介します。

小型軽量で持ち運びができ卓上クラスで100の無菌操作ができるものです。小型ですのでPCAポンプカセットへの薬液充填などを主な目的とします。利用を希望する会員薬局が薬剤師会と利用契約を締結した上で各薬局に持ち帰り操作する事ができます。従来はクリーンベンチや安全キャビネット等を有する「無菌調剤対応薬局」へご紹介するしかなかったのですが、本機を使用することで、各薬局においてもPCAポンプカセットへの薬液充填など簡易な無菌操作が行えるようになりました。

※参考：PCA(自己調節鎮痛法)に用いる持続皮下注用ポンプ

第3回(10月21日)在宅でできる口腔ケア～訪問歯科診療の実際～ 加納町さわ歯科 澤 秀樹先生

澤先生から「質問を中心に講義する」と伺っていたので、申し込み時の質問に対してもアドバイスをいただいています。また、8020運動の成果で約4割の方が達成されているようです。そのため自歯のある高齢者が増加し、却って口腔ケアを難しくし怪我の心配もあると伺いました。インプラント挿入者も増加しインプラント性歯周炎を併発する方もいますが、簡単に除去することは難しいようです。新たな課題もありますが、100人いたら100通りの口腔内で、人それぞれに背景があり、その方に合う口腔ケアを多職種で考えながら進めていければ最良とお話されています。では詳細について一部をご紹介します。

Q1. 口腔ケアは何故行わなくてはならないの？

- 口の中を清潔にする
- 歯や口の疾患の予防
- 口腔の機能を維持
- 誤嚥性肺炎、感染性心内膜炎など全身疾患の予防
- 栄養状態の維持・向上



Q2. 口腔ケアに対して拒否され口を開けない方、時には不穏になる方にはどうすればいいの？

Check !

下前歯の裏がきれいに磨けていないと歯全体が磨けていない事も多いよ。確認しましょう！



- 突然刺激を与えない
- 多くの刺激を同時に与えない
- 強い刺激を与えない
- 短時間に適切なケアを行う
- 無理をしない
- ケアをする方の状態を観察する
- 優しい言葉かけをする

リラックス効果

肩・首筋・顔面のマッサージをしてから始めるとスキップに慣れ、口腔周囲筋も緩み、リラックスできます。

Q3. 義歯を装着したまま就寝されても支障はないか？

- 誤飲の危険性や衛生面のためにも就寝中は義歯を外すこと。

●口から食事ができない方の口腔ケアの方法

- ①歯ブラシ、モアブラシ、歯磨ティッシュ、スポンジブラシ、保湿剤、うがい薬を用意
- ②口腔内を湿らす(水分に気を付けて)
- ③よく絞ったスポンジブラシやモアブラシで口腔内をふき取る。歯がある方は柔らかい歯ブラシで磨く
- ④最後に保湿剤を塗布して終了

コロナ第4波における終末期ケアに関する実態調査

訪問看護ステーション／居宅介護支援事業のアンケート結果から

コロナ禍において、訪問看護師から「月1000件超えで訪問回数が増えている」との情報から、病院の面会制限などから終末期患者さんが自宅を希望し自宅看取りが増加しているのではないかと考え、看取り件数やACP、多職種間の情報共有などについて調査した結果の一部をご紹介します。

(1) 2021年4月～6月 訪問・看取りなどの件数

訪問看護ステーション	利用者数	訪問件数	緊急訪問件数	在宅看取り件数
延べ件数	3,647	21,006	410	47
月別延べ件数	1215.7	7,002	136.7	16.7
月別最大値(実数)	152	1,085	78	4
月別最小値	52	283	0	0

居宅介護支援事業所	利用者数	在宅看取り件数
延べ件数	9,856	24
月別延べ件数	3285.3	8
月別最大値(実数)	308	14
月別最小値	14	0

※利用者数はケアマネジャー配置数に比例



※利用者数に比較して在宅看取り件数に訪問看護事業所が多いのは、医療保険対応が追加されていると推測

(2) 在宅看取りをされたご本人(ご家族)の満足度

	とても満足(実数/%)		やや満足(実数/%)		不満足
訪問看護ステーション	42	89.40%	5	10.60%	0
居宅介護支援事業所	23	95.83%	1	4.16%	0

(3) 情報共有の手段

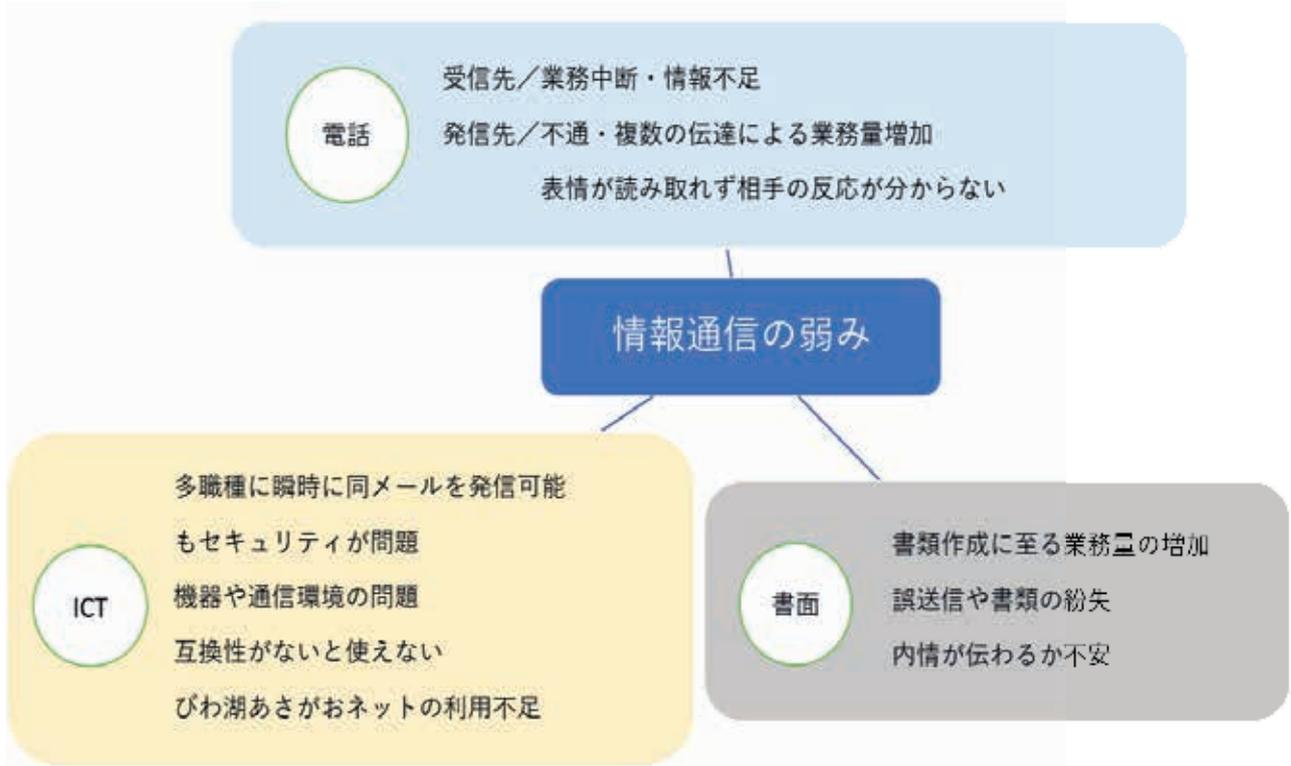
	担当会議などの手段			情報連携：コロナ前後の変化		
	対面	書面	オンライン	変化あり	変化なし	未回答
訪問看護ステーション	12	11	5	8	4	1
居宅介護支援事業所	31	30	2	19	5	※10
備考	対面と書面は、いずれも半々			※未回答の内、看取り件数なし6件		

(4) ACPについて本人やご家族と繰り返し話し合いを行っているか

	十分に 行っている	一応 行っている	どちらとも いえない	殆ど行ってい ない	関わって いない	未回答
訪問看護ステーション	6	3	2	0	2	0
%	69%					
居宅介護支援事業所	1	17	6	6	1	3
%	53%					

(5) 課題とまとめ

※コロナ禍において、情報共有の手段が対面から書面、電話対応に置き換わる！



まとめ

- (1) 訪問看護ステーションは事業所の規模や方針により格差があるが、事業所によっては緊急訪問や看取り件数は増加し、全国的な傾向と一致している。看取り件数について、居宅介護支援事業所と差がみられたが、訪問看護ステーションは医療保険対応が加算されていると考えた。
- (2) 在宅看取りをされたご本人やご家族の満足度はいずれも高値を示したが、ACPの関りについて訪問看護ステーションは69%、居宅介護支援事業所は53%で、ACPの考え方が湖北全体に普及できているとは言い難い。多職種のベクトルが併せられるように研修などで啓発していきたい。
- (3) カンファレンスや担当者会議が対面から書面や電話に置き換わり、効果的に情報が伝わっているかという専門職の不安が聞かれた。また、情報共有の手段である媒体にはそれぞれにメリットやデメリットの意見があった。レセプトと連動したアプリを使って情報共有している事業所もあるがセキュリティが万全とは言い難い。情報共有の手段として当センターが推奨する既存のびわ湖あさがおネットは、5～6事業所の活用でまだまだ利活用に至っていない現状が判った。デジタル化が叫ばれている昨今、効果的な情報共有のために迅速・適確な情報ツールを湖北全体で、統一すべきと考える。

(6) 「ACP や連携に関する好事例」のご紹介

～ 17 年間寄り添った利用者への看取り支援～ 訪問看護ステーション

脳出血発症後の後遺症を持つ男性利用者さんに平成 17 年からリハビリ・保清目的で介入しました。

妻は介護職の資格を持ち自宅で看っていく事を決心し、以後 10 年間はディケアやショートステイを利用し穏やかな在宅生活を送られていました。訪問当初は、左半側空間無視が理解できず、左側からケアを行うと、突然殴られたり蹴られたりした事もありましたが、時間を重ねる内に信頼関係が築けていきました。

以下のタイミングで関わる中、ご本人・ご家族の納得の上で自宅看取りに繋がったケースを紹介します。

在宅医師とケアマネとの連携強化	平成 27 年頃から加齢も加わり麻痺側の拘縮が徐々に進行し ADL が低下します。同時に、誤嚥性肺炎や便ショックを繰り返し入退院が多くなりました。訪問看護としては、起こりうるリスクを伝え介護指導を行い、急変時には在宅医やケアマネジャーと連携し看護を提供しました。また、今後の在宅生活をどのようにしていくか、ケアマネジャーと共に妻の想いを確認しています。この時期に妻は乳がんの手術も行いました。
ポート造設の決断に至る支援	平成 31 年、経口摂取困難に対してポート増設の提案について、妻は手技や管理の不安があり、薬剤の更新のみで後は訪問看護の回数を増やして支援できることを妻に提案しポート増設に至りました。病院の退院指導や訪問看護師の薬剤更新、喀痰吸引の指導から、妻は不安なく薬剤更新ができるようになりました。しかしポート針を自己抜去されることが度々あり、その都度、緊急訪問を行い差し替え等の処理を行い、自己抜去について、在宅医と度々相談して、対策を考えました。
ACP—自宅看取り	令和 3 年、ショートステイ中に高熱で入院。大動脈解離による血圧低下、腎機能低下で一気に終末期に移行し、病院から輸血や透析などの延命治療について提案されます。日頃から妻と訪問時の会話の中で「自宅での看取り」について話し、在宅医と訪問看護が連携し最後まで支援できることを伝えていました。妻は「医療処置で苦しむことは避けたい。今はコロナ禍で面会もできず、それなら家に連れて帰りたい」と本人に状況を伝え、「治療を受けずに自宅に帰ること」の了承を得た後に、子供たちの意思も確認し自宅での看取りを決定されました。亡くなる前に「お母さん、ありがとう、ありがとう」と妻に感謝を述べられ、退院後 5 日目に永眠されました。

ACP の支援は難しいと思います。決定するまでに揺らぎがありますが、このケースは妻の「お父さんを見る」という積極的な強い思いが根底にあり、意思決定支援ができました。

事例提供者



「私は家で死にたい…」という利用者と娘の希望を叶えてあげたい 居宅介護支援事業所

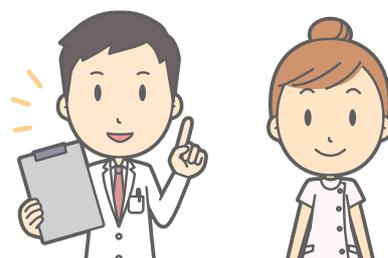
数年前に妻の最期を病院で看取った男性利用者は「妻を家に連れて帰ってやれなかった。最期に食べたいものを食べさせてやれなかった」という妻に対する後悔の想いがあり、「私は家で死にたい」と以前から話されていました。娘さんにもその思いは同様に「お母さんにできなかったから、せめてお父さんには家に連れて帰ってあげたい」と在宅での看取りを希望されます。

病院から「嚥下障害もあり一人暮らしで退院は難しい」と説明を受けます。入院中はコロナ禍で面会できず、病院の看護師さんに電話で状況確認し「どうしたらよいか」と問うと「ケアマネさんと相談してください」との返事。娘さんは「何をどうすればよいか分からない」とケアマネジャーに相談します。

娘さんの強い想い	今まで自分の力でやってきた人だし、自分の力で生き抜いてきた人。本人の言うとおりにしてあげたい。好きなものを食べてもらって家で看取りたい。本当に退院は無理なのか。何とかしてあげたい。
専門職のかかわり	①ケアマネジャーは傾聴を心掛け、不安な想いを聞き取る (不安内容：介護者は娘一人だけ・初めてのことで急変時の対応が心配) ②訪問診療と訪問看護の役割を説明 ③退院カンファレンスに在宅医師や訪問看護師も出席 在宅医師や看護師から娘の意向を汲んだ安心の言葉かけ「いつでも行きますよ。心配な事があれば、いつでも電話してくれたらいいよ。好きなものを一緒に少しずつでも、食べてもらいましょう」
退院後の生活	プリンを介助で食べてもらおうとした所、自分の手で持ってパクパクと食べられました。これには、娘さんも訪問看護師もびっくりしました。娘さんは介護休暇を取得し泊まり込んで介護され、娘さんのご主人やお孫さんの協力もあり、退院後三日目に永眠されました。
自宅看取りに至る 娘さんの満足	お母さんを希望通りに家に連れて帰ってあげられなかったけど、お父さんは家に連れて帰って来られたし、食べたい物も食べさせてあげられたし良かった。心配していましたが、何とか頑張れました。

家で最期を迎える事を、家族が事前に決定していても、不安が大きいものです。ケアマネジャーとして、その気持ちを受け止め、不安を軽減できるよう関わりました。他のサービスやまわりの方々の協力もあり、在宅看取りが実現できたと思います。

事例提供者



【文書訂正のお知らせとお詫び】

令和 3 年 3 月に発行しました長浜米原地域医療支援センターだより別冊保存版訪問系医療介護事業所紹介～顔の見える連携をめざして～の記載内容に誤りがございました。

つきましては、下記の通り訂正をさせていただきますので、該当ページに正しい内容の文書に訂正いただきますようお願い申し上げます。ご迷惑をおかけいたしまして、深くお詫び申し上げます。

頁	(誤)	(正)
P22	ケアプランセンターいぶき居宅介護支援事業	ケアセンターいぶき居宅介護支援事業所
P26	岡崎医院 火・水 休診	祝日のみ休診
P37	近江診療所 診療時間 15:00~18:00	左記の診療時間は小児科のみ
P49	医療法人ながおか歯科クリニック 訪問歯科診療可能な曜日・時間→要相談 連絡先の携帯電話番号は個人のものであり使用しません。削除をお願いします。 クリニックへ相談してください。	
P59	※アイン薬局木之本の追加 アイン薬局木之本店 (住 所) 長浜市木之本町黒田 1086-5 (電話番号) 82-8052 (開局時間) 月・火・木・金・土 9:00~18:00 (定休日) 水・日曜・祝日	

その他：資源情報は当センターのホームページで随時更新していますのでご確認ください。





長浜米原地域医療支援センター

◆編集後記◆

コロナ禍により医療や福祉の現場で働く人の重要性が再認識されていますが、実際の所は大変なジレンマを抱えながらお仕事されておられるだろうと察しています。

さて、紙上の一説からですが、皆さんがご存じのヒポクラテスは「医療で最も大切なのはクリニコス（病人の枕もとで話を聞くこと）」と弟子に語ったと言われています。この言葉が後にクリニックとなり明治の先人は「臨床」と訳されたそうです。

このコロナ禍では患者さんや利用者さんと物理的な距離やマスクなどで「会話」が遠のいています。ACPにおいても日常的な会話から本音がこぼれ落ちることもあり、対面での傾聴や人とつながり難いことでコロナの弊害が一層強まっている社会と感じています。早くこの状況から打破したいと思いますが、大西先生から「reframing」の考え方を学び、この状況を違った視点で眺め良いことを見つけていく事も大事なかなと思っています。